

# 研究説明書

## 1. 研究の題目

### 高齢肺炎症例の摂食嚥下機能予後に関する検討

## 2. 研究の目的

我が国では史上類を見ない超高齢化社会に突入しており、高齢者の肺炎は年々上昇しています。高齢者肺炎の特徴として反復性が挙げられます。反復する肺炎は廃用を進行させ、ADL、摂食嚥下機能を低下させます。

また、高齢肺炎症例の特徴として様々な疾患が背景として存在していることが挙げられます。脳血管疾患の既往や認知機能低下に伴い、摂食嚥下機能評価を行う際に指示理解が困難で有り、評価に難渋する例や、評価の上、適切な食形態で経口摂取を開始しても咳嗽力低下、口腔内汚染、栄養不良、免疫力低下により院内で肺炎が再燃する症例を臨床では多く経験します。

我々は 2020 年に高齢者の四肢骨格筋量指数が退院時の普通食経口摂取可否を予測する因子であると報告しました。しかし、四肢骨格筋量の測定には特別な機器が必要で有り、機器を有さない施設では困難であるなどの諸問題をはらんでいます。特別な機器を有する施設以外でもサルコペニアのリスクを評価出来るように下腿周囲長を評価として用いています。下腿周囲長はメジャー等でふくらはぎの周囲を測るのみで可能であり、簡便に評価可能であるという利点を有しています。

また、院内肺炎再燃を予測する因子に関しては多岐に渡っています。高齢者の肺炎の機序には嚥下機能のみならず口腔内環境や全身状態（栄養、免疫）の関連性が強く示唆されており、嚥下機能評価のみでは肺炎再燃を予測することは困難です。総リンパ球数は栄養評価の指標として用いられているが、免疫機能の評価としても有用である。先行研究では総リンパ球数は術後合併症の予測因子であったと報告されています。

我々は、高齢肺炎症例に対して下腿周囲長、総リンパ球数を含む言語聴覚士（ST）が介入早期に実施可能な諸評価が高齢肺炎症例の摂食嚥下機能を含む様々な予後を予測する因子に関して検討することを目的に本研究を立案しました。

## 3. 研究対象

対象：

- ・ 65 歳以上。肺炎の病名で当院に入院し、言語聴覚療法により十分な評価が可能であった患者様

## 4. 研究方法

### 1) 検査項目

- ・ 基本情報として年齢、性別、BMI、在院日数、リハビリ介入日数、既往歴をカルテより把握します。
- ・ 認知機能検査として Mini-mental state examination を測定します。どれも机の上で行う簡単な検査です。
- ・ 嚥下機能評価として modified water swallow test、the Mann assessment of swallowing ability を評価いたします。どれも少量の水分やゼリーなどの食物を食べて頂

くだけで可能な簡単な検査です。

- ・栄養評価として GNRI、総リンパ球数を評価いたします。採血データから算出できる簡単な栄養評価です。
- ・体格評価として四肢骨格筋量指数,下腿周囲長を評価いたします。侵襲や痛みを伴うことなく、簡単に測定することが出来ます。

## 2)検査時期

初回介入時に上記項目を評価させていただきます

## 3)検査場所

松阪市民病院リハビリテーション室

## 5. 本研究の意義

高齢肺炎症例は様々な既往歴を有しており、指示理解困難であるなど既存の摂食嚥下機能評価では評価困難な症例を数多く経験します。簡便に、受動的に出来る嚥下機能評価の充実は、今後のリハビリテーションのみならず高齢者肺炎の治療に大きな示唆を与えるものであると考えます。

## 6. この研究への参加について

この研究への参加は自由であり、患者様の意思に基づくものです。不参加の場合でもリハビリテーションは従来通りに行われるため、患者様に不利益をもたらすことはありません。また、同意した後でも、患者様の意思で研究への参加をいつでも中止することができます。途中で中止した場合もリハビリテーションに関する全てにおいて不利益をもたらすことは何もありません。

## 7. プライバシーについて

すべての貴方のプライバシーに関する秘密は注意深く保持されます。今回評価させて頂いた内容は学会発表など以外に用いられることはありません。患者様の自由意志に基づき、その可否を判断頂くことが可能です。この研究についてわからない点や不安な点があればいつでも担当者にご質問ください。

研究責任者：天白陽介（松阪市民病院 リハビリテーション室）

松阪市民病院 リハビリテーション室

〒515-8544 三重県松阪市殿町 1550

電話 0598-23-1515